



Exastro

CloudSystemテンプレート

概要

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」として記載します。

第1.0版 (ITAバージョン1.5.0版)
Exastro developer

目次

1. CSテンプレート概要
2. CSテンプレート実行例
 1. 環境の準備
 2. 【手順①】 パラメータの編集
 3. 【手順②】 システム構築の実行(= Stack作成)
 4. 出来上がったシステムを確認
3. 参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー -
4. 付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する -

CSテンプレート概要

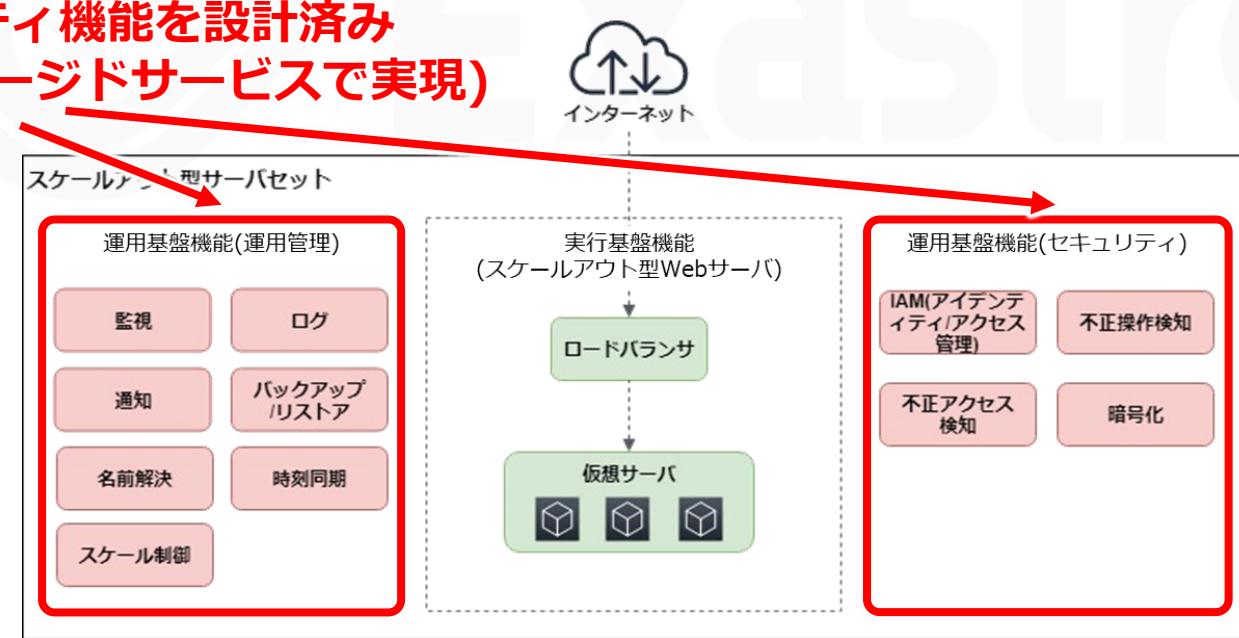


CS (CloudSystem) テンプレートとは？

CSテンプレートは「**設計済みクラウドシステムモデルのIaC(Infrastructure as a Code)**」です
運用管理やセキュリティなど運用上必須の機能が構築済みであることが特徴です

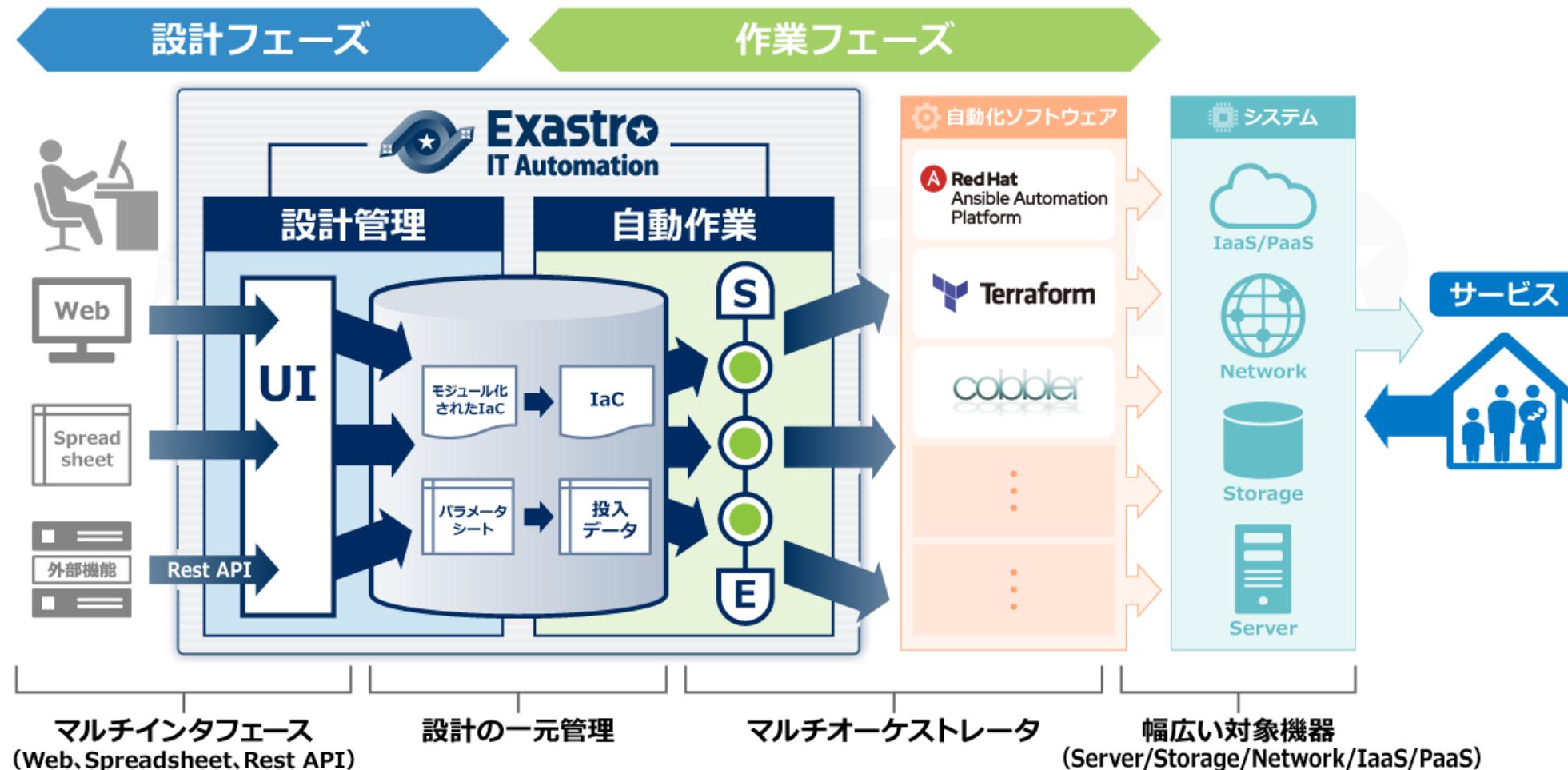
機能分類	概要
実行基盤機能	本テンプレートデモでは、ロードバランサ配下のスケールアウト型Webサーバを構成
運用基盤機能（運用管理）	監視、ログなど、プラットフォームの正常性を維持する機能群
運用基盤機能（セキュリティ）	アクセス制御など、プラットフォームのセキュリティを確保する機能群

**運用管理・セキュリティ機能を設計済み
(サーバを使わずマネージドサービスで実現)**



実行基盤機能は最低限の機能 (オートスケール+LB) のみを具備

Exastro IT Automationは 「システム情報をデジタル管理するためのフレームワーク」です



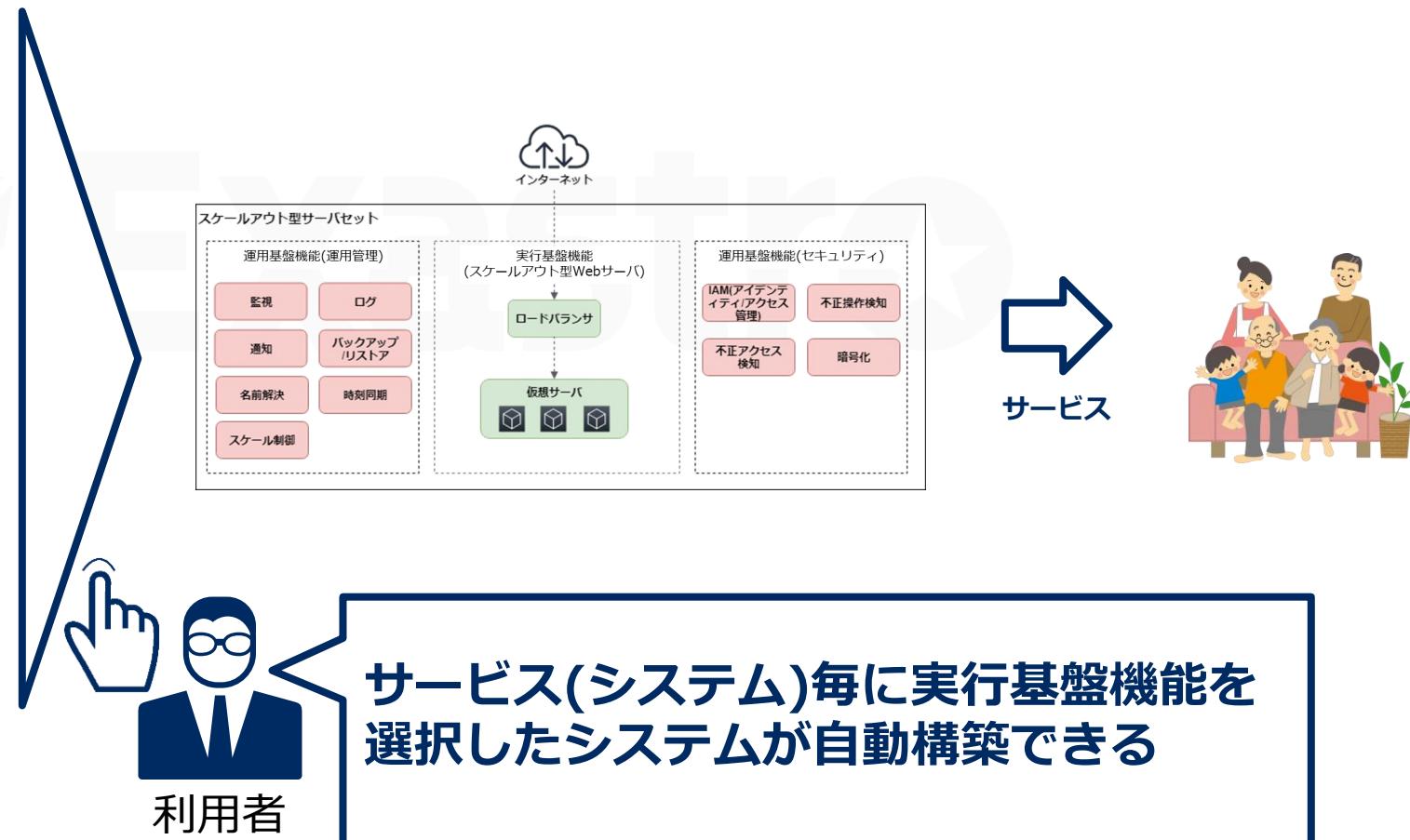
CS Template



Exastro
IT Automation

Exastroを活用したCSテンプレートの実行(1/3)

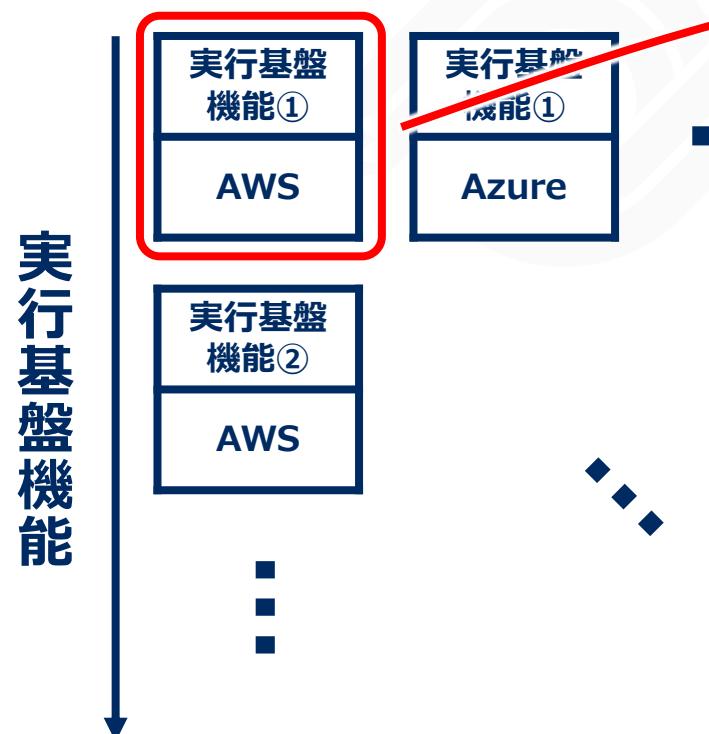
設計済みのCSテンプレートをただ提供するだけでなく、自動構築ツール
"Exastro IT Automation"にCSテンプレートを取り込んだ状態で、
パラメータ調整+実行の2アクションでシステムを提供することが可能です



CSテンプレートとExastroでの実行との関連イメージは下記の通りです。

CSテンプレート施策の広がり

様々なクラウドへの適用



Exastro ITAでの実行

Conductor

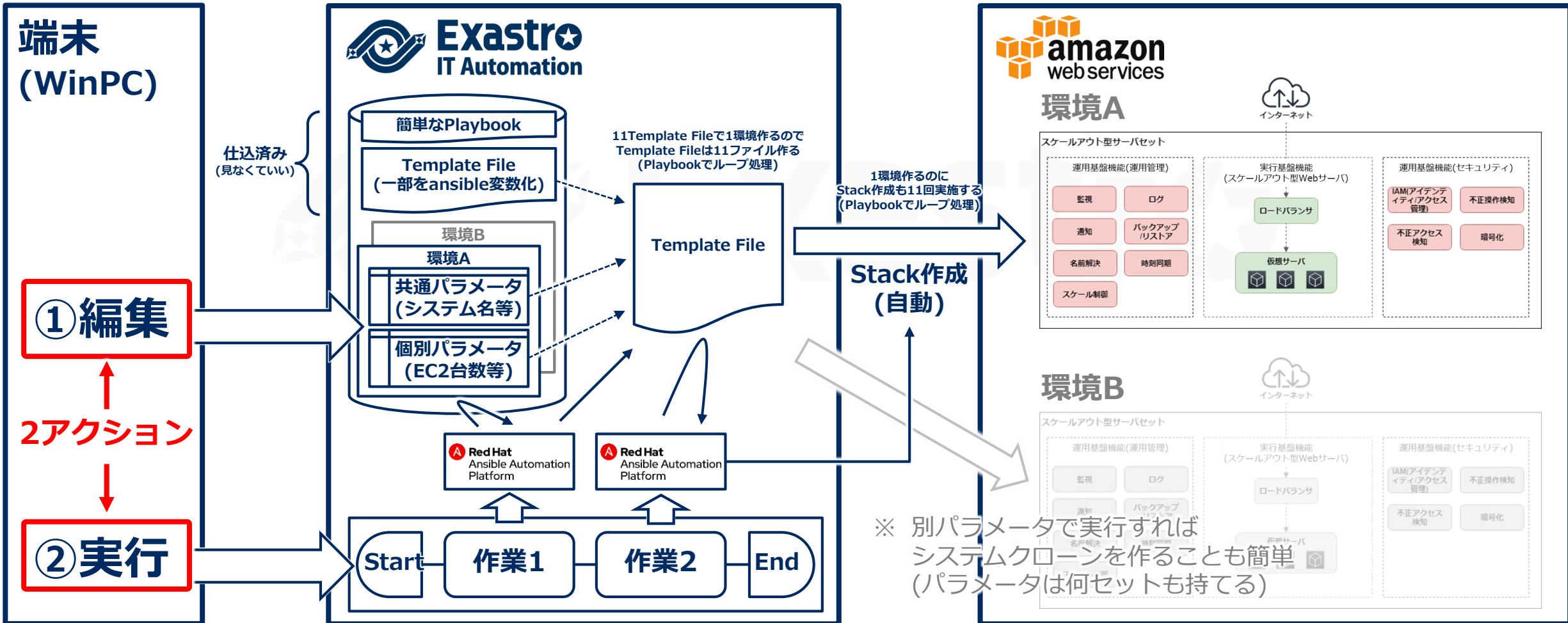


利用者



Exastroを活用したCSテンプレートの実行(3/3)

Exastro IT AutomationにCSテンプレートを組み込むことにより、以下のような流れでAWS上の環境自動構築が実現可能です。



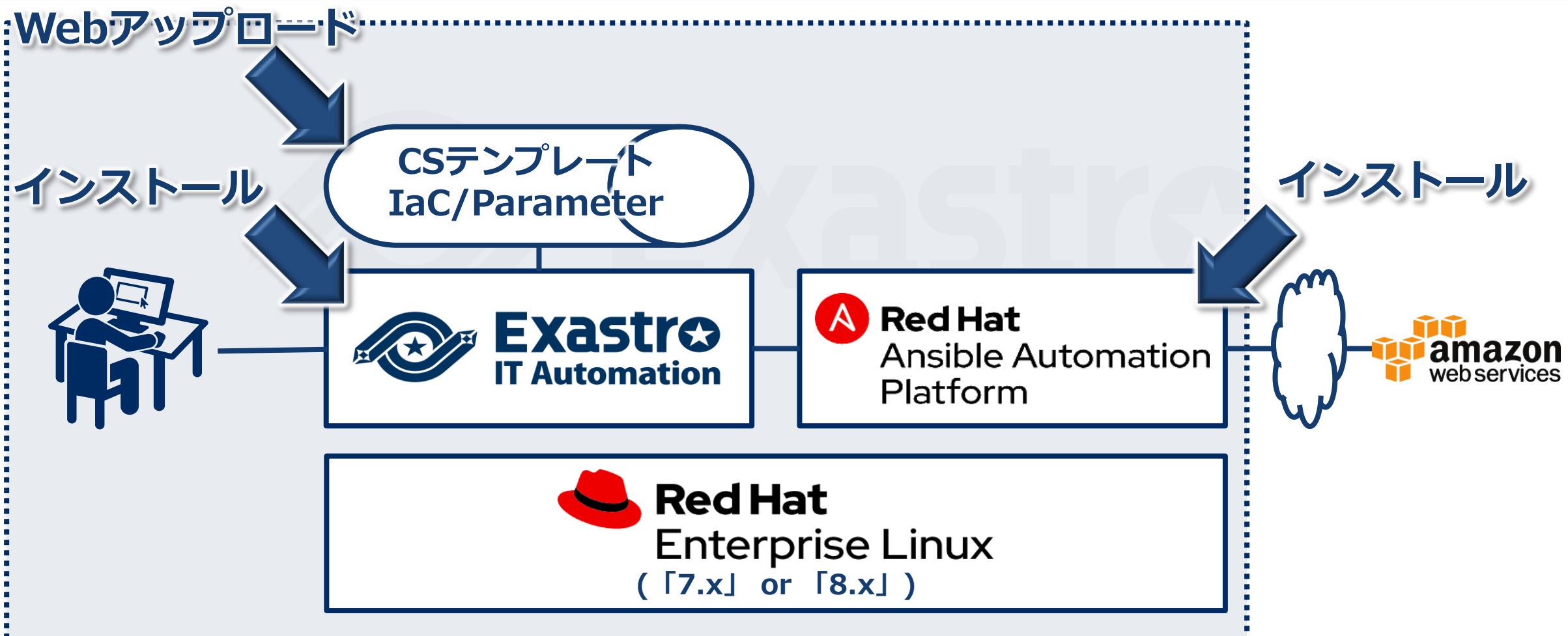
CSテンプレート実行例 環境の準備



【CSテンプレート実行例】環境の準備

以下のような環境を準備します。

(詳細は「CloudSystemテンプレート導入手順書」の導入準備と導入作業を参照のこと。)



CSテンプレート実行例

【手順①】 パラメータの編集



【手順①】 パラメータの編集 (1/3)

ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]
パネル表示：中 パスワード変更 ログアウト

Menu

メインメニュー

- 共通パラメータ
- AWS管理者パラメータ
- インフラ管理者＆インフラユーザーパラメータ
- AutoScaleパラメータ
- S3パラメータ
- SNSパラメータ
- CloudTrailパラメータ
- Networkパラメータ
- SecurityGroupパラメータ
- Bastionパラメータ
- VPCflowlogsパラメータ
- CloudWatchAlarmパラメータ
- GuardDutyパラメータ

メインメニュー

パラメータ管理 構築/更新シナリオ 削除シナリオ ドキュメント管理 AWSアクセスキー Teams連携管理 管理コンソール 基本コンソール エクスポート/SOEs Symphony Conductor メニュー作成 ホストグループ Ansbile共通

Ansbile-Legacy Ansbile-Pioneer Ansbile-Legacy... マスタ管理 【ホスト用】構築... 【ホスト用】削除... 【参照用】パラメータ 【参照用】構築... 【参照用】削除... 代入値管理 【ホスト用】代入値

このパネルをクリックすると…

← パラメータのリストが見えます

【手順①】パラメータの編集 (2/3)

The screenshot shows the Exastro IT Automation Parameter Management interface. On the left, a sidebar lists various parameter categories: AWS管理者パラメータ, インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ, AutoScale/パラメータ, S3/パラメータ, SNS/パラメータ, CloudTrail/パラメータ, Network/パラメータ, SecurityGroup/パラメータ, Bastion/パラメータ, VPCFlowLogs/パラメータ, and CloudWatchAlarm/パラメータ. The '共通パラメータ' option is highlighted with a red box. The main content area has tabs for '説明' (Description), '表示フィルタ' (Display Filter), and '一覧/更新' (List/Update). The '一覧/更新' tab is active, showing a table of common parameters. The table has columns for '更新' (Update), '廃止' (Delete), 'No.' (ID), 'ホスト名' (Host Name), 'オペレーション' (Operation), 'ID', 'オペレーション名', '基準日時', '実施予定日時', '最終実行日時', 'システム名', 'AWSリージョン', '最終更新日時', and '最終更新者'. Two rows are listed: one for environment A (host 1) and one for environment B (host 4). A large red box highlights the entire table area. Below the table, there is a note in Japanese: 「システム名」等の共通パラメータはここで指定します (複数環境のパラメータセットを管理できます). The note is overlaid on the table area.

更新	廃止	No.◆	ホスト名◆	オペレーション						最終更新日時◆	最終更新者◆
				ID◆	オペレーション名◆	基準日時◆	実施予定日時◆	最終実行日時◆	システム名◆		
更新	廃止	1	exastro-it-automation	1 環境A	2020/08/24 14:16	2020/05/28 11:00	2020/08/24 14:16	cs-test-A	us-east-1	2020/08/24 13:37:55	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	4	exastro-it-automation	4 環境B	2020/08/24 14:16	2020/06/01 12:00	2020/08/24 14:16	cs-test-B	ap-southeast-	2020/08/24 13:26:05	データポータビリティプロシージャ

「システム名」等の共通パラメータはここで指定します
(複数環境のパラメータセットを管理できます)

登録

全件ダウンロードとファイルアップロード編集

変更履歴

【手順①】 パラメータの編集 (3/3)

Exastro IT Automation パラメータ管理

ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]
パスワード変更 ログアウト

☰ Menu

- メインメニュー
- 共通パラメータ
- AWS管理者パラメータ
- インフラ管理者&インフラユーザー パラメータ
- AutoScaleパラメータ
- S3パラメータ
- SNSパラメータ
- CloudTrailパラメータ
- Networkパラメータ
- SecurityGroupパラメータ
- Bastionパラメータ
- VPCflowlogsパラメータ
- CloudWatchAlarmパラメータ

説明

表示フィルタ

一覧/更新

△閉じる

更新	廃止	No	ホスト名	オペレーション						最終更新日時	最終更新者
				ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	ヘルスチェックパス		
更新	廃止	1	exastro-it-automation	1 環境A	2020/08/24 14:16	2020/05/28 11:00	2020/08/24 14:16	/index.html	/dev/x	2020/08/18 13:27:48	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	4	exastro-it-automation	4 環境B	2020/08/24 14:16	2020/06/01 12:00	2020/08/24 14:16	/index.html	/dev/x	2020/08/24 13:32:57	データポータビリティプロシージャ

フィルタ結果件数: 2

**個別パラメータはカテゴリ毎に作ってます
例えば「オートスケールの最小/最大インスタンス数」
などの設定値を編集できます。
(複数環境のパラメータセットが管理できることは、
どの個別パラメータも共通パラメータと同様です。)**

登録

全件ダウンロード

変更履歴

CSテンプレート実行例

【手順②】 システム構築の実行(= Stack作成)

[補足]Stackとは....

システムで必要とするAWSリソースのかたまり。

CloudFormationではリソースをStackという単位で
管理することで環境の生成・破棄をシンプルにしている。

Stackを作成することで、AWSサービスの構築・設定が
行われる。

【手順②】システム構築の実行(= Stack作成) (1/4)

The screenshot shows the Exastro Conductor web interface. On the left, a sidebar menu lists several options under 'Conductor作業実行'. One option, 'Conductor実行', is highlighted with a red box and a red arrow pointing to it from the bottom-left. Another red box highlights the 'Conductor' icon in the main content area, which is also pointed to by a red arrow from the bottom-right. The main content area displays various management icons and their corresponding labels.

ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]
パネル表示：中 パスワード変更 ログアウト

Exastro IT Automation Conductor

Menu

メインメニュー

Conductorインターフェース情報

Conductorクラス一覧

Conductorクラス編集

Conductor作業実行

Conductor作業確認

Conductor作業一覧

Conductor定期作業実行

管理者に連絡

メインメニュー

パラメータ管理 構築/更新シナリオ 削除シナリオ ドキュメント管理 AWSアクセスキー Teams連携管理 管理コンソール 基本コンソール エクスポート/… Symphony Conductor メニュー作成 ホストグループ… Ansible共通

Conductor実行

Ansible-Legacy Ansible-Pioneer Ansible-Legacy… マスタ管理 【ホスト用】構… 【ホスト用】削… 【参照用】パラ… 【参照用】構築… 【参照用】リリ… 代入値管理 【ホスト用】代…

このパネルをクリックし…

「Conductor作業実行」クリック

【手順②】システム構築の実行(= Stack作成) (2/4)

The screenshot shows the Exastro Conductor interface. On the left, a sidebar lists various menu items: Main Menu, Conductor Interface, Environment Information, Conductor Cluster List, Conductor Cluster Creation, Conductor Task Execution, Conductor Task Monitoring, and Conductor Scheduled Task Execution. The 'Conductor Task Execution' item is currently selected.

The main area displays a list of tasks:

- 1 オートスケールWebサーバ (構築/更新) - Description: オートスケールWebサーバを構築または更新を実行します。AWS CloudFormationでStackが未作成の場合、構築処理が実行されます。Stackが作成済みかつパラメータに変更がある場合、更新処理が実行されます。Role名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。操作: データポータビリティプロジェクト
- 2 オートスケールWebサーバ (EC2へPlaybook実行) - Description: オートスケールWebサーバのEC2インスタンスに対するPlaybookを実行します。実行するPlaybookを変更する際はelementを削除してから新規作成し、「イメージファイルをWebサーバへ設定」と記入してください。操作: データポータビリティプロジェクト
- 3 オートスケールWebサーバ (削除) - Description: オートスケールWebサーバを削除します。SSPアカウントも削除対象。操作: データポータビリティプロジェクト
- 4 Guardduty (構築/更新) - Description: ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。Guardduty構築または更新を実行します。AWS CloudFormationでStackが未作成の場合、構築処理が実行されます。Stackが作成済みかつパラメータに変更がある場合、更新処理が実行されます。Guarddutyの構築は、オートスケールWebサーバ(構築後に実行してください)。操作: データポータビリティプロジェクト
- 5 Guardduty (削除) - Description: 構築されたGuarddutyを削除します。ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。操作: データポータビリティプロジェクト
- 6 AWS管理者 (構築/更新) - Description: ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザー、AWSの管理者ユーザー、管理者グループの作成または更新を実行します。操作: データポータビリティプロジェクト

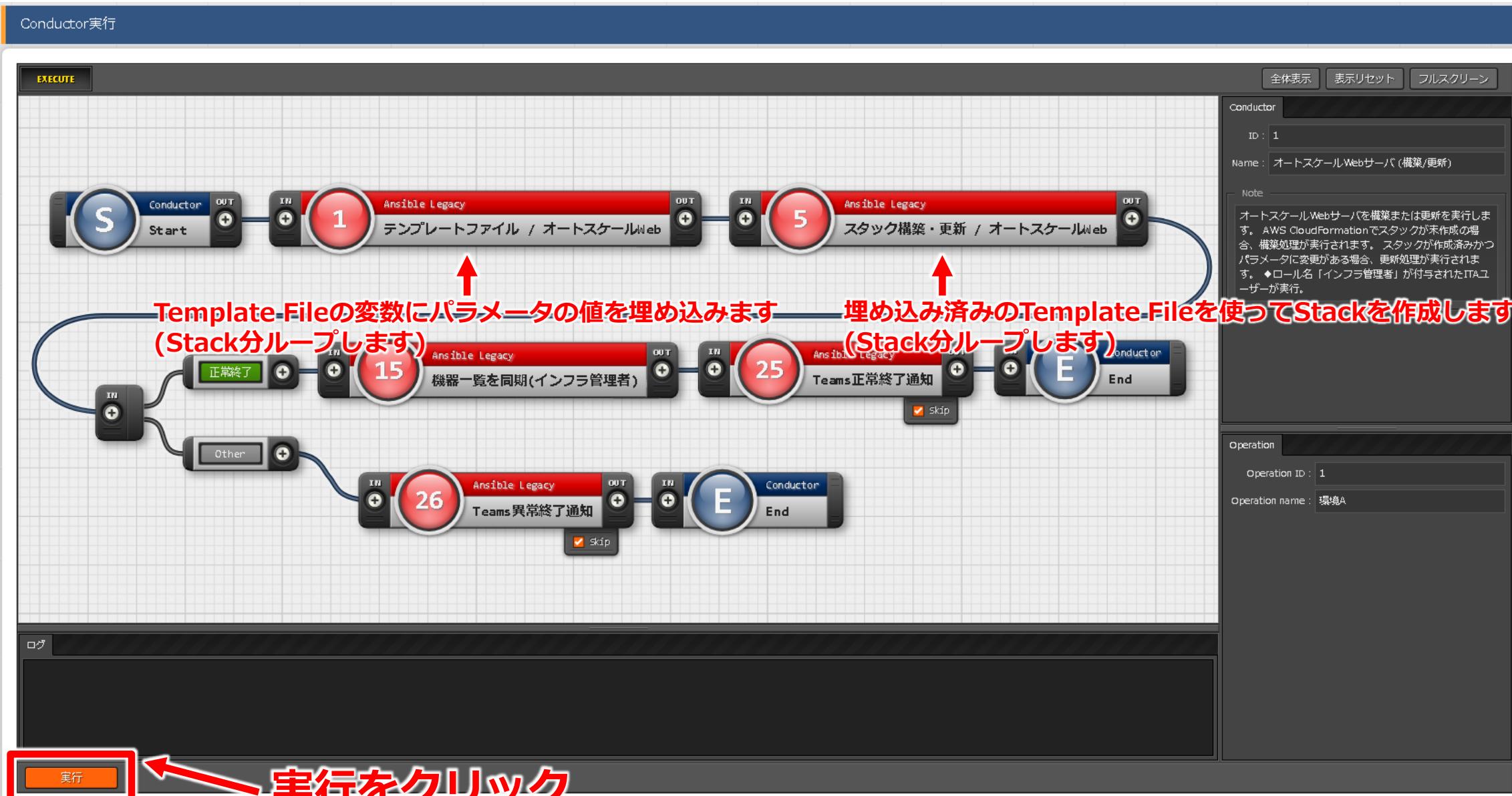
A red box highlights the first task, and a red arrow points to its description. Red text overlaid on the image reads: "実行するConductorを選択" (Select the Conductor to execute) and "「オートスケールWebサーバ (構築/更新)」を選択" (Select 'Auto Scaling Web Server (Create/Update)').

At the bottom, another red box highlights the first operation in a list of operations:

- 1 環境A - Description: 東京リージョンを使用。操作: legacy作業実行プロジェクト
- 2 環境B - Description: 東京リージョンを使用。操作: legacy作業実行プロジェクト

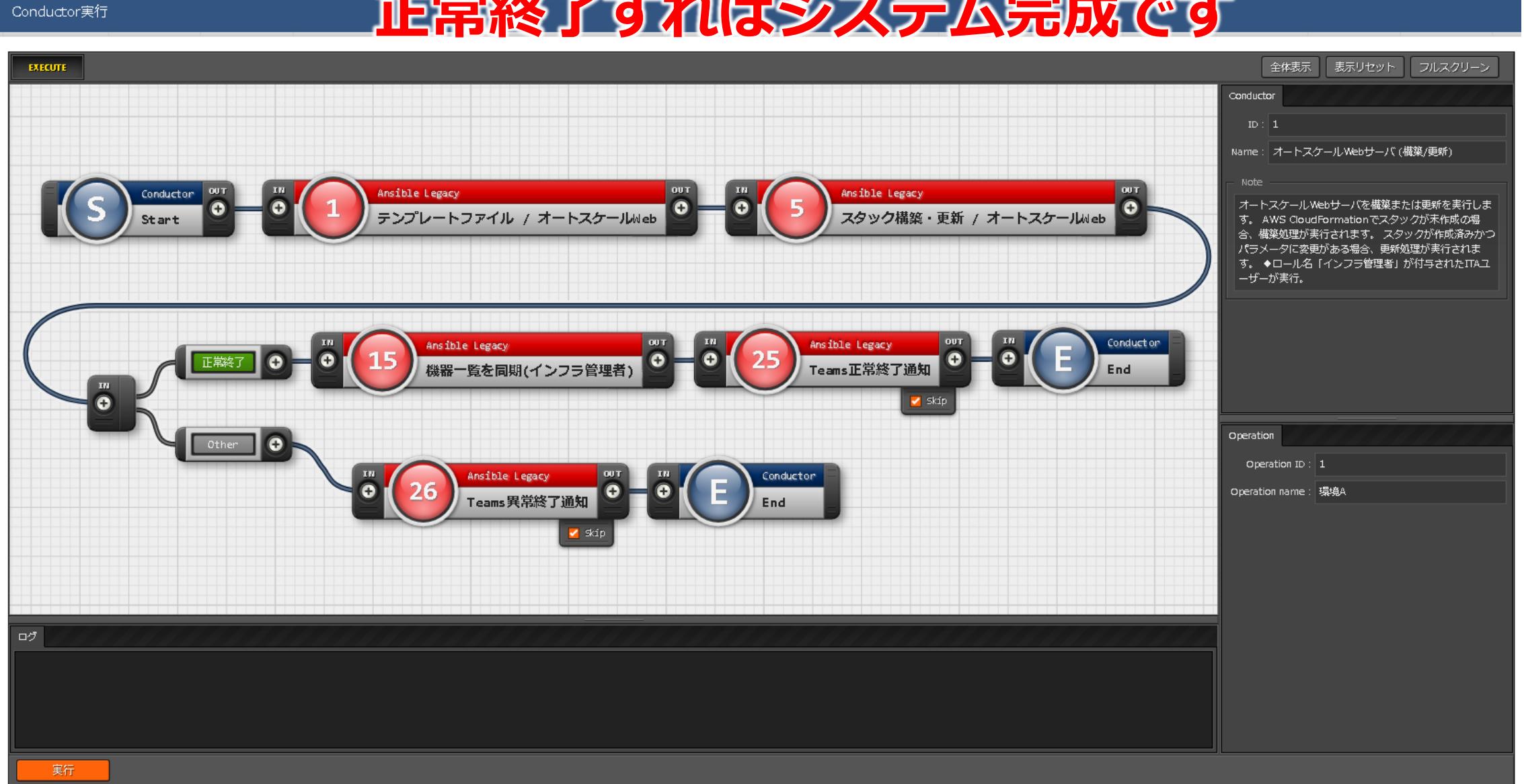
Red text overlaid on the image reads: "Operation(=パラメータのセット)を選択" (Select Operation (=Parameter Set)) and "例えば「環境A」を選択" (For example, select 'Environment A').

【手順②】システム構築の実行(= Stack作成) (3/4)



【手順②】システム構築の実行(= Stack作成) (4/4)

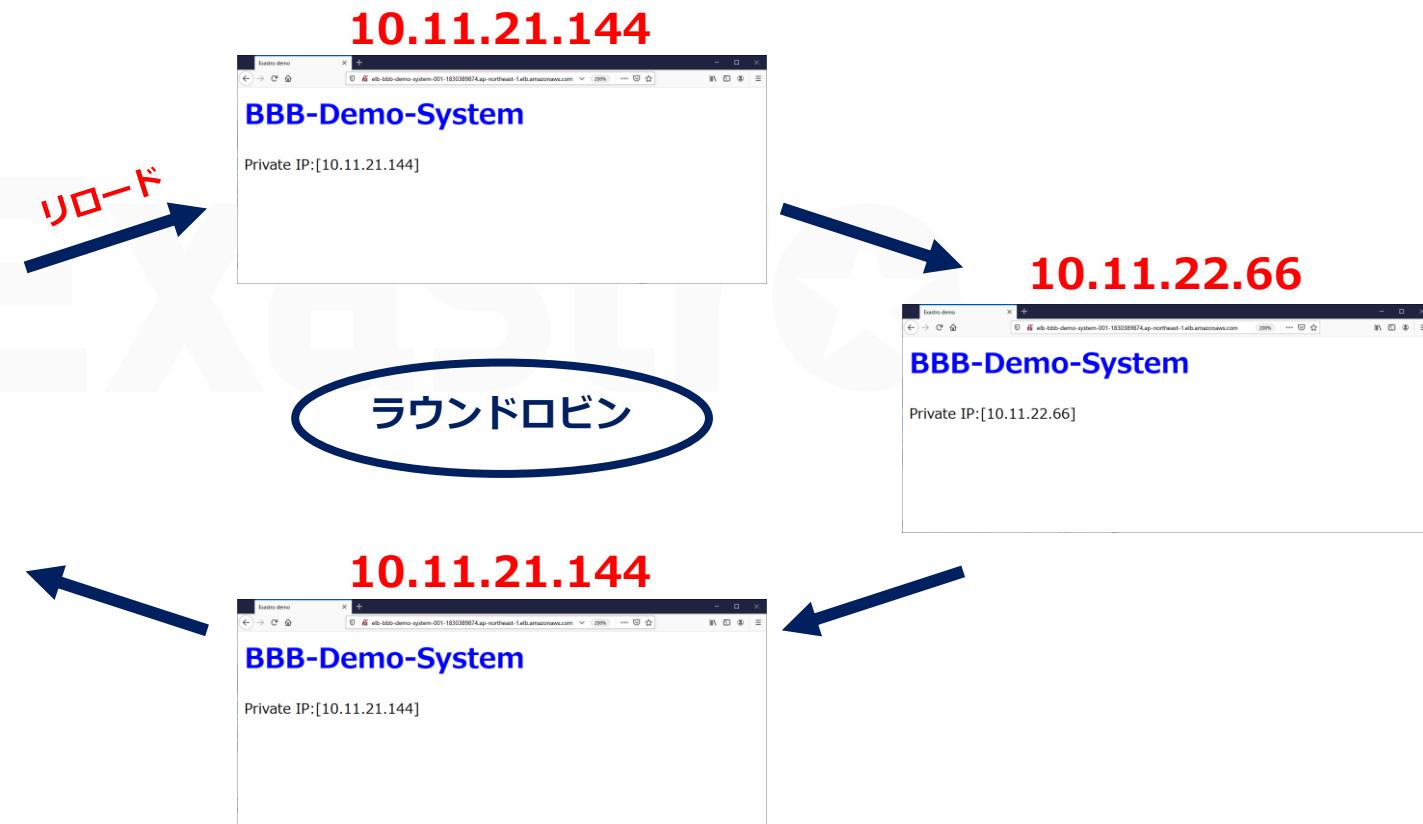
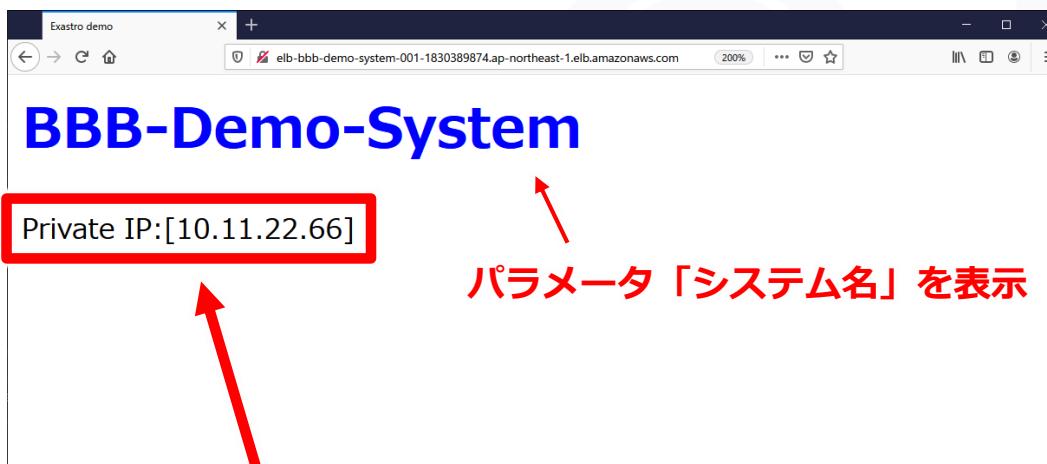
正常終了すればシステム完成です



出来上がったシステムを確認

ブラウザでロードバランサにアクセスすると、下記の通り簡単なWeb画面が閲覧できます。
(リロードするたびに、複数のWebサーバをラウンドロビンすることが確認できます。)

ロードバランサへのアクセス結果画面





参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー -

参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー - (1/4)

The screenshot shows the Exastro IT Automation Document Management interface. The top navigation bar includes the Exastro logo, a user greeting (ようこそ[インフラ管理者]さん), login information (ログインID [infra-admin]), and links for password change and logout. On the left, a sidebar menu lists categories like Main Menu, Basic Design, Detailed Design, Structure Documents, and Evaluation Documents. The main content area displays a table of uploaded documents with columns for Action, Status, ID, Version, File Name, Reference, Last Update Date, and Last Updater. A red box highlights the document list. Below the table, a message states: "CSテンプレートの設計書類もExastro IT Automationで管理可能です。ドキュメント管理に必要なドキュメントをアップロードします。" (CS template design documents can also be managed by Exastro IT Automation. Upload the documents required for document management.)

更新	廃止	No	バージョン	ファイルアップロード	備考	最終更新日時	最終更新者
更新	廃止	1	1.0	CloudFormation実装方式設計書.pptx		2020/06/05 14:09:37	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	2	1.0	SIテンプレート機能設計書(スケールアウト型サーバ).xlsx		2020/06/05 14:09:52	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	3	1.0	SIテンプレート機能設計書(共通設計).xlsx		2020/06/05 14:10:04	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	4	1.0	SIテンプレート機能設計書(付帯機能_セキュリティ).xlsx		2020/06/05 14:10:23	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	5	1.0	SIテンプレート機能設計書(付帯機能_運用管理).xlsx		2020/06/05 14:11:01	データポータビリティプロシージャ

フィルタ結果件数: 5

CSテンプレートの設計書類もExastro IT Automationで管理可能です。
ドキュメント管理に必要なドキュメントをアップロードします。

Excel出力

登録

全件ダウンロードとファイルアップロード編集

変更履歴

管理者に連絡

参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー - (2/4)

The screenshot shows the Exastro IT Automation web interface. The top navigation bar includes the Exastro logo, a user greeting (ようこそ[インフラ管理者]さん), login information (ログインID [infra-admin]), and links for 'Password Change' and 'Logout'. The left sidebar has a 'Menu' section with 'Main Menu' and 'Auto Scale Web Server' (which is highlighted with a red box). The main content area is titled 'Scenario/Update Scenario' and contains three tabs: 'Explanation', 'Display Filter' (which is also highlighted with a red box), and 'List/Update'. Below these tabs is a table titled 'Operations' with columns for 'Update', 'Delete', 'No.', 'Operation Name', 'Baseline Time', 'Implementation Scheduled Date', 'Final Execution Date', and 'Last Update Date'. A second table titled 'Parameter' is overlaid on the right side of the operations table, showing 11 entries with columns for 'Input Order', 'Stack Name', 'Template File', 'Target', and 'Last Update Date'. An 'Excel Output' button is located at the bottom left of the main content area.

オペレーション					パラメータ			最終更新者					
更新	廃止	No.	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	代入順序	スタック名	テンプレートファイル	対象	リ	最終更新日時	最終更新者
更新	廃止	1	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	1	IAM-Role	"{{ TPF_IAM_ROLE }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	2	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	2	KMS	"{{ TPF_Security_KMS }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	3	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	3	S3	"{{ TPF_Storage_S3 }}"	●	2	2020/06/08 18:28:04	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	4	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	4	SNS	"{{ TPF_AppIntegration_SNS }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	5	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	5	CloudTrail	"{{ TPF_Management_CloudTrail }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	6	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	6	Network	"{{ TPF_Network }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	7	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	7	SecurityGroup	"{{ TPF_SecurityGroup }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	8	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	8	Bastion	"{{ TPF_Bastion }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	9	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	9	AutoScaleServer	"{{ TPF_AutoScale }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	10	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	10	VPCflowlog	"{{ TPF_Management_VPCflowlog }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	11	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	11	CloudWatchAlarm	"{{ TPF_Management_CloudWatchAlarm }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ

フィルタ結果件数: 11

Excel出力

シナリオ毎に使うスタック(=Template File)を紐づけます

- ※ 例えば「オートスケールWebサーバ」では11本のスタックを紐づけています。
- ※ 構築対象に「●」を付けているものが構築されます。
- 「●」をメンテナンスすることでスタックを選択できます。
- ※ スタック単位にリトライ回数の設定も可能です。

参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー - (3/4)

Exastro IT Automation Ansible共通 ようこそ[インフラ管理者]さん ログインID [infra-admin] パスワード変更 ログアウト

☰ Menu

メインメニュー グローバル変数管理 ファイル管理 テンプレート管理

説明 表示フィルタ 一覧/更新

更新 廃止 素材ID: 1 TPF_AutoScale テンプレート埋込変数名: [SiTemplate_AutoScale.yaml](#)

更新 廃止 2 TPF_Security_KMS テンプレート埋込変数名: [SiTemplate_Security_KMS.yaml](#)

更新 廃止 3 TPF_Storage_S3 テンプレート埋込変数名: [SiTemplate_Storage_S3.j2](#)

管理者に連絡

Ansible変数化した「Template File」はここで管理

87
88
89 # 2.ElasticLoadBalancing
90 ##
91 # 2-1.ElasticLoadBalancing
92 ElasticLoadBalancing1:
93 Type: 'AWS::ElasticLoadBalancingV2::LoadBalancer'
94 Properties:
95 - Key: ipAddressType
96 Value: ipv4
97 - Key: loadBalancerAttributes:
98 - - Key: access_logs.s3.enabled
99 - - Value: true
100 - - Key: access_logs.s3.bucket
101 - - Value:
102 - - Fn::ImportValue: !Sub \${SystemName}-S3BucketNameAlbLog
103 - - Key: access_logs.s3.prefix
104 - - Value: !Ref AlbLogPrefix1
105 - - Key: deletionProtection.enabled
106 - - Value: false
107 - - Key: idleTimeout.timeoutSeconds
108 - - Value: 60
109 - - Key: routing.http2.enabled
110 - - Value: true
111 - - Name: !Sub elb-\${SystemName}-001
112 - - Scheme: internet-facing
113 - - SecurityGroups:
114 - - - Fn::ImportValue: !Sub \${SystemName}-ELBSecurityGroup
115 - - Subnets:
116 - - - Fn::ImportValue: !Sub \${SystemName}-SubnetIdPublic1
117 - - - Fn::ImportValue: !Sub \${SystemName}-SubnetIdPublic2
118 - - - Fn::ImportValue: !Sub sub-\${SystemName}-public-001
119 - - - Fn::ImportValue: !Sub sub-\${SystemName}-public-002
120 Tags:
121 - - Key: Name
122 - - Value: !Sub elb-\${SystemName}-001
123 - - Key: Environment
124 - - Value: !Sub "\${Environment}"
125 - - Key: Application
126 - - Value: !Sub "\${Application}"
127 - - Key: Owner
128 - - Value: !Sub "\${Owner}"
129 - - Key: Department
130 - - Value: !Sub "\${Department}"
131 - - Key: CostCenter
132 - - Value: !Sub "\${CostCenter}"
133
134
135
136 # 2-2.Listener
137

△開く △開く △閉じる

参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー - (4/4)

Exastro IT Automation Ansible-Legacy ようこそ[インフラ管理者]さん
ログインID [infra-admin] パスワード変更 ログアウト

説明

表示フィルタ

一覧/更新

更新 廃止 素材ID
1 テンプレートファイルの作成 CFn_templates.yaml
2 Cloudformation実行(構築／更新) CFn_module.yaml
3 Cloudformation実行(削除) CFn_module_delete.yaml
4 起動時コマンドの設定 set_user_data.yaml
5 ELBホスト名取得 elb_dnsname.yaml
6 IAM-Role作成 CFn_Iam_Role.yaml
7 IAMユーザー作成 CFn_Iam_User.yaml
8 構築用ファイルを作成 action_file_create.yaml
9 削除用ファイルを作成 action_file_delete.yaml
10 密密鍵を作業用ディレクトリに展開 set_secret_key.yaml
11 一覧を初期化 device_list_sync.yaml
12 ファイルを送信 send_imagefile.yaml
13 バケットの削除 delete_S3_bucket.yaml
14 チームメッセージを送信 send_teams_message.yaml

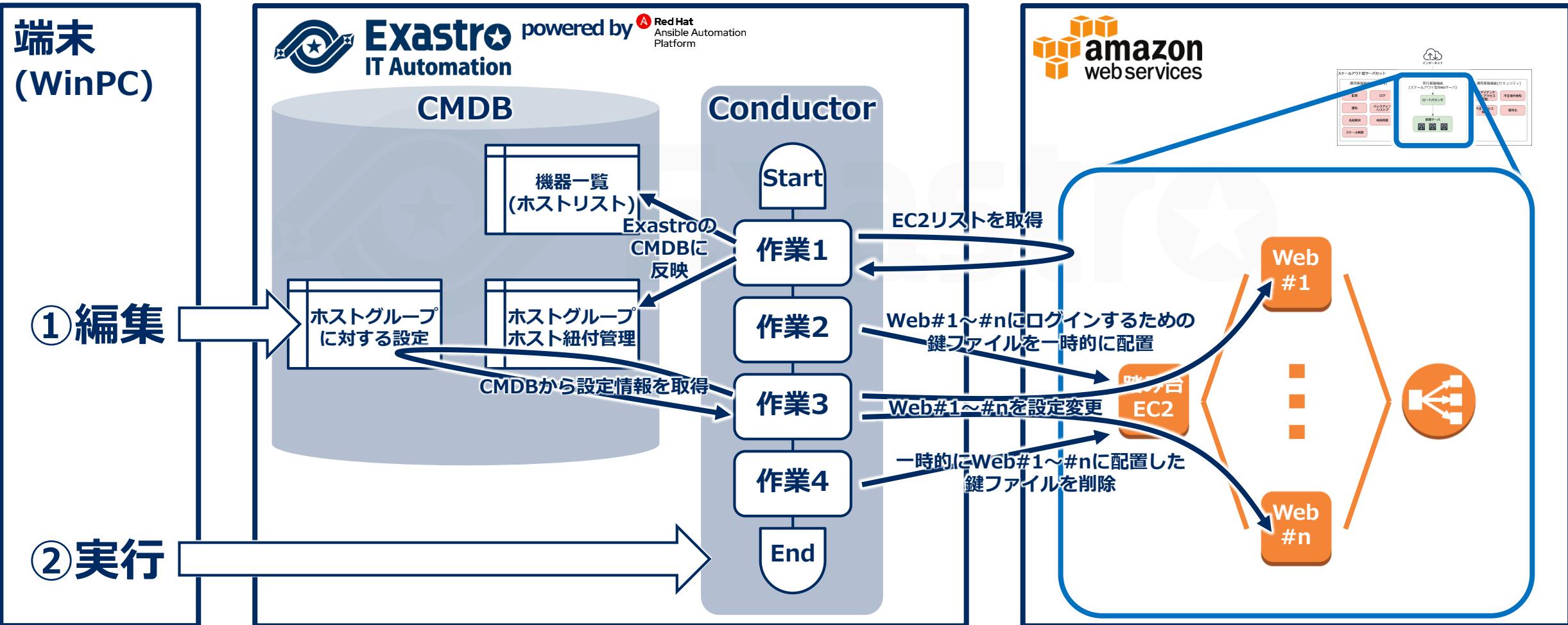
使用している
「Ansible Playbook」
はここで管理
※単純なPlaybookで
実現できています

1
2 name: Create_Templatefile
3 template: src="{{ item.1 }}" dest="{{ __symphony_workflowdir__ }}/{{ item.0 }}.yaml"
4 when: item.2 == '●'
5 with_together:
6 - "[[VAR_STACKNAME]]"
7 - "[[VAR_TPFFILE]]"
8 - "[[VAR_EXE_FLAG]]"
EOF
1
2 state: present
3 template: "[[__symphony_workflowdir__ }}/{{ item.0 }}.yaml"
4 template_parameters:
5 UpdateDate: "[[lookup('pipe','date +%Y%m%d%H%M')]]"
6 role_arn: "arn:aws:iam::{{ VAR_accountId }}:role/CloudFormationRole"
7 validate_certs: no
8 when: item.1 == '●'
9 with_together:
10 - "[[VAR_stackName]]"
11 - "[[VAR_EXE_FLAG]]"
12 environment:
13 AWS_ACCESS_KEY_ID: "{{ VAR_ACCESS_KEY }}"
14 AWS_SECRET_ACCESS_KEY: "{{ VAR_SECRET_ACCESS_KEY }}"
15 AWS_DEFAULT_REGION: "{{ VAR_REGION }}"
16 EOF



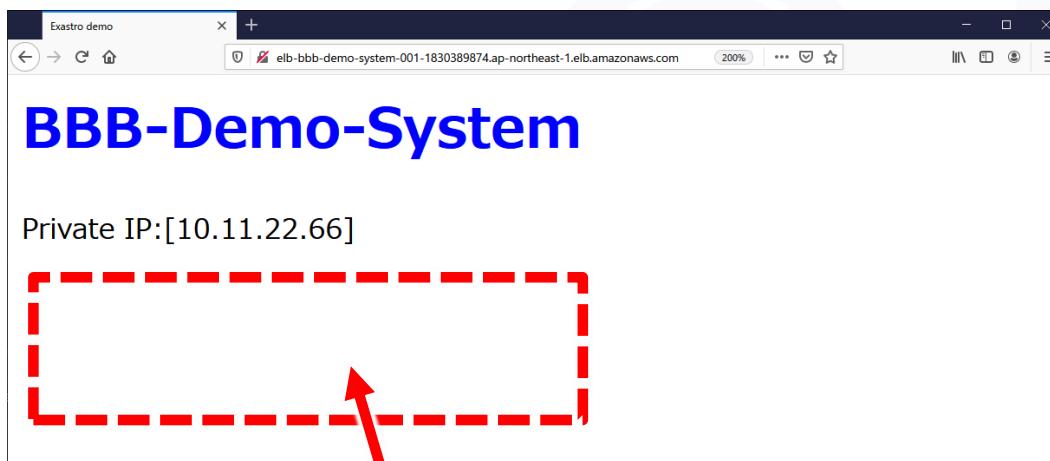
付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する -

稼働中のEC2(オートスケール)に緊急でパッチ適用するケースなどにおいて Exastro ITA + Red Hat Ansible Automation Platformを活用頂けます

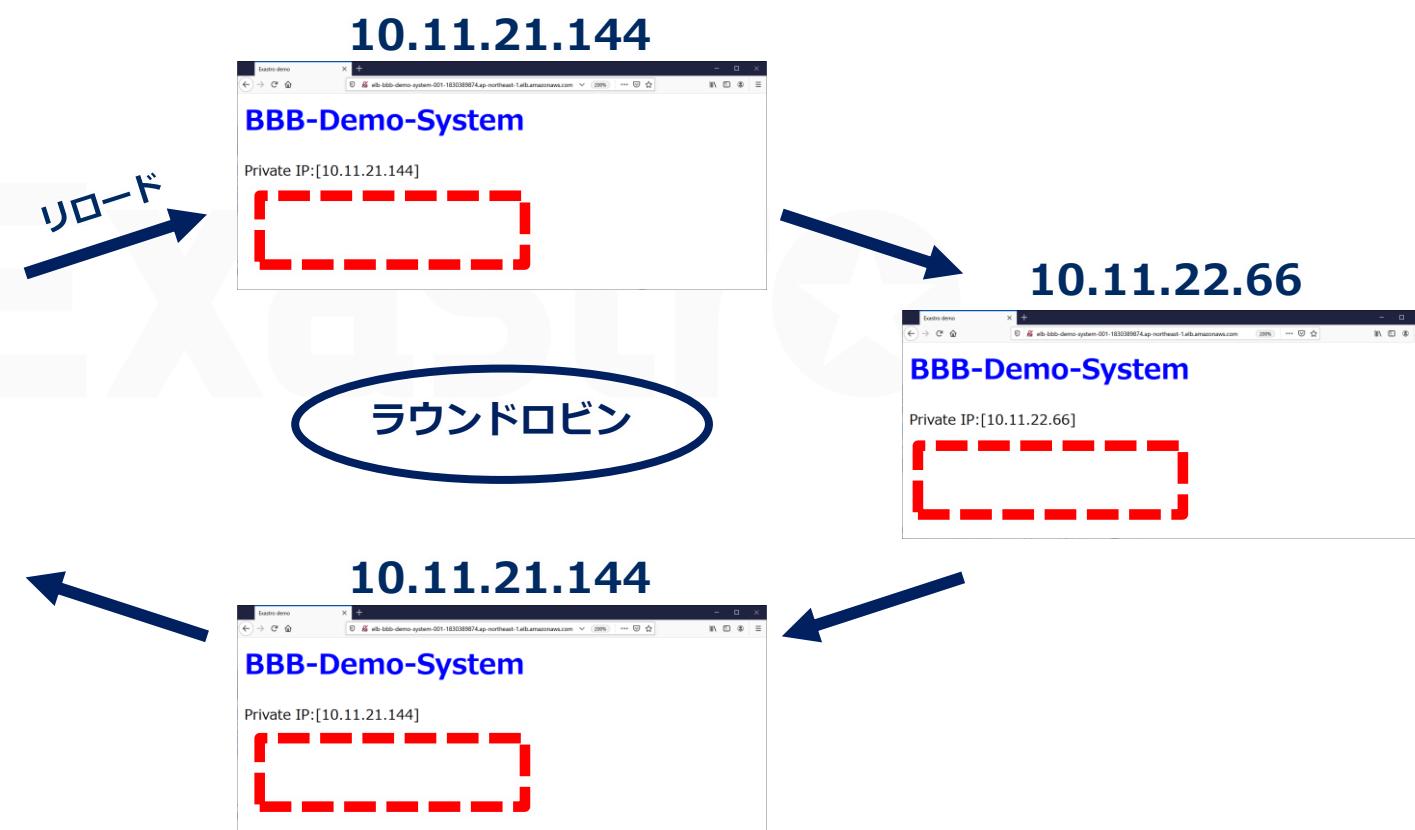


オートスケール対象の複数台のEC2に対してWeb画面に画像(※)を挿入します。
※ EC2に対するパッチ適用に見立ててご理解ください。

ロードバランサへのアクセス結果画面



画像が無い状態
(パッチ適用前と考えてください)



付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する - (3/6)

Exastro IT Automation Ansible共通 ようこそ[インフラ管理者]さん
ログインID [infra-admin] パスワード変更 ログアウト

☰ Menu ▽開く
メインメニュー
グローバル変数管理
ファイル管理

テンプレート管理 △閉じる

説明
表示フィルタ
一覧/更新

更新	廃止	素材ID	ファイル埋込変数名	ファイル素材	備考	最終更新日時	最終更新者
更新	廃止	1	CPF_STARTUP	ec2_userdata	WEBサーバの起動時設定	2020/05/28 09:17:47	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	2	CPF_SECRET_KEY_BASTION	si-template-omcs.pem	踏み台サーバの秘密鍵	2020/06/10 14:14:30	システム管理者
更新	廃止	3	CPF_SECRET_KEY_WEB	si-template-omcs.pem	WEBサーバの秘密鍵	2020/06/10 14:14:43	システム管理者
更新	廃止	4	CPF_IMAGEFILE	Exastro-ITA-logo1-rgb.png	Webサーバ表示用画像	2020/06/18 09:16:11	システム管理者
更新	廃止	5	CPF_AWS_SDK	aws_sdk.zip	AWS SDK for PHP	2020/05/28 09:19:11	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	6	CPF_DEVICE_LIST_SYNC	device_list_sync	機器一覧同期モジュール	2020/06/08 12:04:19	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	7	CPF_IMAGEFILE	super-tower.jpg	デモ表示用画像		

フィルタ結果件数: 6

Excel出力

登録

全件ダウンロードとファイルアップロード編集

変更履歴

※*は必須項目です。

挿入したい画像をアップロード
(パッチデータをアップロードするイメージ)

素材ID ファイル埋込変数名* ファイル素材* 備考 最終更新日時 最終更新者

7 CPF_IMAGEFILE 現在アップロードされているファイル:
[super-tower.jpg](#)
ファイルを選択 選択されていません
事前アップロード
アップロード状況:

戻る 更新

付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する - (4/6)

The screenshot shows the Exastro Conductor interface. On the left, there's a sidebar with various menu items like 'Menu', 'メインメニュー', 'Conductor', 'Conductor[一覧]', etc. The main area displays a list of conductors:

選択	ConductorクラスID	Conductor名稱	説明	備考	最終更新日時	最終更新者
<input type="radio"/>	1	オートスケールWebサーバ (構築/更新)	オートスケールWebサーバを構築または更新を実行します。 AWS CloudFormationでスタックが未作成の場合、構築処理が実行されます。 スタックが作成済みかつパラメータに変更がある場合、更新処理が実行されます。		2020/08/21 11:03:56	データポータビリティプロジェクト
<input type="radio"/>	2	オートスケールWebサーバ (EC2へPlaybook実行)	オートスケールWebサーバのEC2インスタンスに対してPlaybookを実行します。 実行するPlaybookを変更する際はdocumentを新規作成し、「イメージファイルをWebサーバへ設定」と変更してください。 ◆ロール名「インフラユーザー」が付与されたITAユーザーが実行。		2020/08/28 13:10:59	データポータビリティプロジェクト
<input type="radio"/>	3	Guardduty (構築/更新)	Guardduty構築または更新を実行します。 AWS CloudFormationでスタックが未作成の場合、構築処理が実行されます。 スタックが作成済みかつパラメータに変更がある場合、更新処理が実行されます。 Guarddutyの構築は、オートスケールWebサーバ後に実行してください。		2020/08/28 13:12:59	データポータビリティプロジェクト
<input type="radio"/>	4	Guardduty (削除)	Guarddutyと連携してGuarddutyを削除する操作を行います。 ◆ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。		2020/08/28 13:12:59	データポータビリティプロジェクト
<input type="radio"/>	5	Guardduty (構築)	Guardduty構築を実行します。 ◆ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。		2020/08/28 13:12:59	データポータビリティプロジェクト
<input type="radio"/>	6	AWS管理者 (構築/更新)	AWS管理者構築または更新を実行します。 ◆ロール名「AWS管理者」が付与されたITAユーザーが実行。		2020/08/28 13:12:59	データポータビリティプロジェクト

Red boxes highlight the second row (Conductor ID 2) and the first row of operations (Operation ID 1). Red arrows point from the text annotations to these highlighted areas.

**実行するConductorを選択
「オートスケールWebサーバ (EC2へPlaybook実行)」を選択**

**Operation(=パラメータのセット)を選択
例えば「環境A」を選択**

付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する - (5/6)

Conductor実行

正常終了すればEC2への設定変更が完了です

EXECUTE 全体表示 表示リセット フルスクリーン

Conductor
ID : 2
Name : オートスケールWebサーバ (EC2へPlaybook実行)
Note
オートスケールWebサーバのEC2インスタンスに対してPlaybookを実行します。実行するPlaybookを変更する際はMovementを新規作成し、「イメージファイルをWebサーバへ設定」と変更してください。◆ロール名「インフラユーザ」が付与されたITAユーザーが実行。

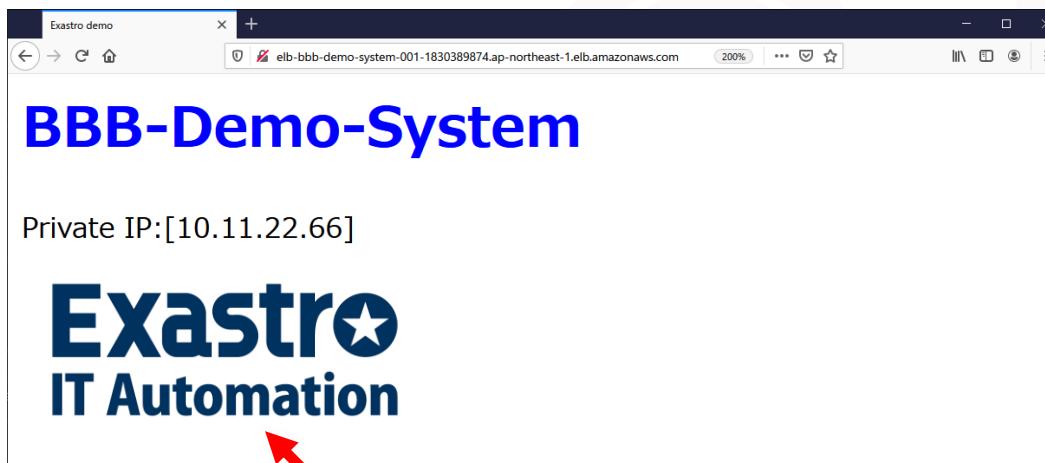
Operation
Operation ID : 1
Operation name : 環境A

ログ

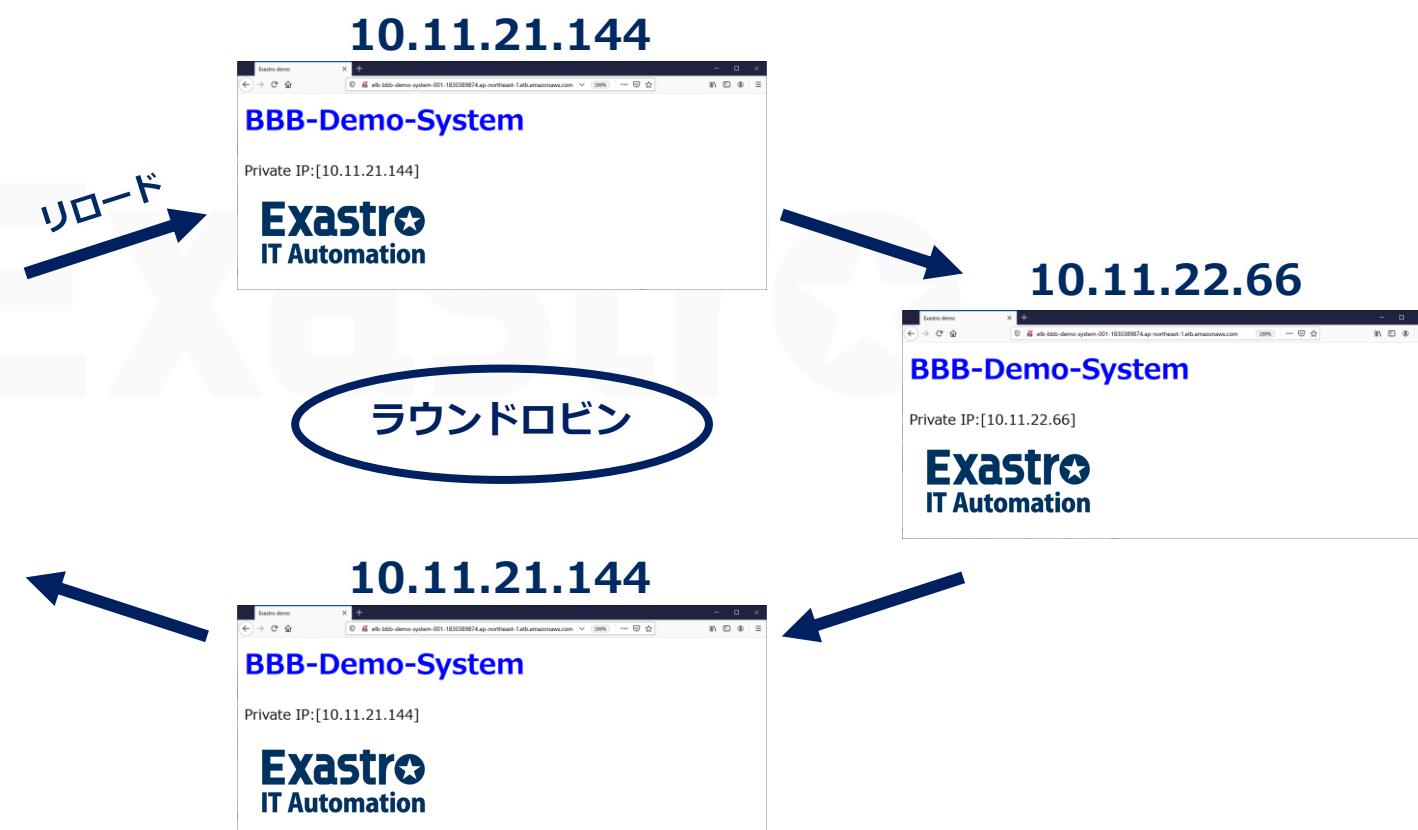
実行

オートスケール対象の複数台のEC2に画像が挿入されます。
(パッチが適用されたとお考え下さい)

ロードバランサへのアクセス結果画面



全てのEC2に画像が挿入されます
(パッチが適用されたと考えてください)





Exastro 